

多様な価値観に囲まれて興味を追求する イギリス医学部留学



ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン医学部医学科5年
(UCL MBBS iBSc Medicine Year 5)

島戸 麻彩子

1998年東京都生まれ。2015年経団連から全額奨学金を受けてUWCインド校に留学し、2017年国際バカロレアを取得。江副記念リクルート財団学術部門奨学生。

国際的に働く医師を目指し 英国の医学部に進学

私が国際保健の分野に最初に興味を持ったのは、2010年のハイチ大地震です。当時小学5年生だった私は、ハイチのようなインフラや医療設備が整っていない国では、同じように大地震に見舞われながらも何度も復興を遂げてきた日本と比べて、地震後にコレラのような感染症が蔓延したり世界中からの支援物資が上手く行き渡らなかつたりして苦しみ亡くなる方が多いと知り愕然としました。日本で生まれ育った私がいかに恵まれているのかを実感し、将来は医師としていわゆる途上国で困っている方々を直接助け、必要な医療を受けられない人を減らしたいと志すようになりました。

日本の中学校で英語を勉強し始めてから、「日本語の慣れ親しんだ環境から離れて自分自身を試してみたい」「違う国の人ともっと交流してみたい」という気持ちが芽生え、経団連が支援するUnited World College (UWC) 留学プログラムをインターネットで見つけました。高校1年次の選抜を通過すれば、国際感覚豊かな人材を養成することを目的とする世界各国のUWCへ2年間留学できるプログラムです。約70か国から集まる同年代と共に生活しながら様々な課外活動に取り組めるという点に惹かれ、日本で通っていた高校の先生方を説得して応募し、全額奨学金をいただいてUWCインド校に留学する機会を得ました。UWC在学中には、文化や伝統について地元の方に教えていただきながら地

域のニーズに合ったボランティア活動を計画・実行する経験を通して、異なる価値観を知ることや新しく出会う方々と議論を重ねることがとても楽しいと気づきました。2年間のインド留学を経て、医学にとどまらない広い視野や異文化享受性・適応力を兼ね備えた医師になって国際保健に取り組みたいという気持ちがより強くなりました。そこで、UWCで取得した国際バカロレアという国際的な高校卒業資格を使って、1) 多様なバックグラウンドを持つ患者さんを診ながら英語で医師免許を取得でき、2) 世界中から留学生が集まり、3) 国際開発学や熱帯医学が発展しているイギリスで医学を学ぶという決断に至りました。

自主性が重視され実践的な 臨床実習

私が在籍するUCLの医学部では、1～2年次に座学と解剖を行い、3年次

に臨床医学からいったん離れて基礎研究や論文執筆を通して医学関連の理学士号(Bachelor of Science)を取得します。私は免疫学・感染症学のコースを選択し肺がんの研究をしていました。4～6年次の臨床実習では、病院の診療科を一通り回ったり(イギリス特有の)かかりつけ医の診療所に通ったりしながら、医学部卒業後即戦力になれるよう実践的な経験を積んでいます。例えば、医学生が最初に問診と身体所見を取って医師の先生にまとめて発表したり、採血や心電図など簡単な手技や検査を行ったり、病棟回診の際に電子カルテを作成したりしています。また、チーム医療でも患者さんとの信頼関係構築でも大切となるコミュニケーションに重きを置いた教育がされていて、練習シナリオや実際の対話で場数を踏んでいます。低学年の頃は授業のスピードや医学用語に苦労していましたが、現在5年生として取り組んでいる実習



写真 ガンビアの農村で妊産婦の方々を集めてグループインタビューをしている様子



Malaria in Kenya: Nov 2021 - Dec 2021



© 2021 by TOMO Global Health

③

①精神科の実習でお世話になった医師の先生方と ②ウィンザー近くのビクトリア朝ゴシック様式の建物にて
③国際保健人材育成プロジェクトを立ち上げ、ケニア・日本・イギリス・キプロスの学生を対象に6週間のオンラインケーススタディを開催

では英語の細かいニュアンスや患者さんそれぞれの価値観の違いに悩まされています。医師の先生・患者さん・同級生などから実習中にいただくフィードバックを基に私に足りない部分を客観的に見極めて、自分で日々目標を設定しながら能動的に実習や授業に臨むことで、患者さん中心のケアを提供できる医師へと少しずつ成長したいと考えています。

COVID-19のパンデミックを受けて、昨年はICUでのコロナ対応にも実習の合間を縫って参加しました。手取り足取り看護師さんからご指導いただきながら、バイタルの記録、口腔ケア、薬の準備、寝返りの補助等医学生として安全にこなせるタスクを担当していました。医療がひっ迫した状況でも患者さんの尊厳を守る医療従事者の方々の姿から多くを学び、そして未曾有の社会危機において微力ながら貢献できた経験はとても貴重だったと感じます。

課外活動と留学生活

勉学に限らず、自発性があれば様々な課外活動にも取り組みます。大学には多彩なソサエティ（部活動）が存在しており趣味や課外活動に打ち込んでいる学生が多いので、自分の興味に沿って行動を

起こしやすい環境だと感じます。私は実習以外の時間や長期休みを利用して、ガンビアの現地NPOと連携した子どもの健康改善プロジェクトの立ち上げ、国際開発学の勉強会運営、障がいのある子どもの家庭を定期訪問するボランティア活動などに取り組んできました。ほかにも医学に関連したもので言えば、興味のある診療科に関する学生カンファレンスに参加したり、大規模な臨床研究のデータ集めの一部に取り組んだりしています。カンファレンスでは、専門医の先生のレクチャーや手技レッスン、他の学生とネットワーキングを通して、様々な医学分野への興味を深めキャリアの選択肢を見極めることができます。最近はオンラインで日本を含め世界中のさらに多くのイベントに気軽に参加できるようになったので、イベントの取捨選択がさらに難しくなりました。

特に冬は暗く寒いイギリスで心身ともに健康に過ごすために、食事と睡眠に加えて、医学部の勉強や課外活動で忙しくても息抜きの機会を意識して作るように努めています。低学年の頃は、大学の授業後にダンス系のサークルで体を動かし、夏休みにイギリス国内やヨーロッパを旅行していました。最近は、ロンドンの街

中の美術館を巡ったり、ミュージカルやバレエを鑑賞しに劇場を訪れたり、そして高校生活を懐かしく思いながらインド料理を食べに行ったりすることで、オンとオフのスイッチを切り替えています。

一つ一つの出会いを大切に 私らしい道を切り開きたい

医学部卒業後はイギリスで初期研修を行う予定ですが、居住国を含めその後のキャリアプランはまだ明確に決めていません。免疫学や小児科学に低学年の頃から惹かれており特に最近のがん治療に興味があるので、今後病院研修や臨床研究等を通して、医師としての役割と求められるスキルについて理解をさらに深めたいと思います。2021年より、日本WHO協会や日本国際保健医療学会等における発信、そして国際保健人材育成のプロジェクト立ち上げといった新たな挑戦を通して、特に日本の方との多くの貴重なご縁に恵まれ大変嬉しいです。今後も様々な方からのアドバイスや応援を糧に、医師としての専門性、国際保健分野への熱意、日本人学生としてインドやイギリスに飛び込んできた体験を掛け合わせて、私らしい在り方や人生の歩み方を模索していきます。